

電子複写不可

沖繩作戰概史 (才三案)

才一復員局

防衛研修所図書館



史料 経歴 系

一、本史(實)料は昭和二十年八月大東亞戦争終了後、第一復員省(局)史実調査部(史実調査課)に於いて作成又は収集したものであるが、古儀米軍の没収を避けるため、部長麻野邦四郎大佐(自筆)に提出し、次いで同大佐主宰の史実研究所が保管していたものである。

二、昭和三十五年四月三十日服部大佐死亡に伴い、遺族の申出により同年六月戦史室に寄贈された。
昭和三十五年六月二十二日

本館蔵書記帳簿 (一) 服部大佐(元陸軍少佐)

防衛研究所蔵書 防衛研究所蔵書

防衛研究所蔵書 防衛研究所蔵書



正史資料

中絶作戦概史

第二案

は
365

目次

- 第一 作戰準備及指揮系統ノ變更
- 第二 作戰思想ニ就テ
- 第三 作戰開始前ノ情勢ニ就テ
- 第四 作戰計畫ノ概要
- 第五 兵團ノ素質
- 第六 築城訓練
- 第七 作戰經過
 - 一 空襲開始ヨリ本島上陸迄
 - 二 敵ノ本島上陸ヨリ主陣地前方ノ作戰
 - 三 第一回總攻撃中止ノ經緯
 - 四 第二回總攻撃中止ノ經緯

五 第三回攻撃ノ經緯

六 敵ノ攻勢發起

七 敵ノ第一回總攻撃ノ頃挫ヨリ五月四日攻勢前迄ノ軍ノ統帥

八 軍ノ航空戦力ニ期待スル思想ノ變遷

九 最後ノ攻勢開始ト中止ニ關ル經緯

十 首里最後ノ攻防ト南方地區戦線轉移ノ經緯

十一 島尻地區ノ軍ノ終末戰論

48 43 38 36 28 25

附 伊江島及國頭方面ノ戰論

附圖第一 沖繩作戰經過要圖 (1/4 | 1/4)

附圖第二 全島 (國頭地區) (1/4 | 1/4)

附圖第三 全島 (1/4 | 11/5)

附圖第四 五月四日戰爭經過要圖

附圖第五 全島 (1/4 | 1/4)

第一 作戰準備及指揮系統ノ變更

一九四四年三月 米軍マリアナ攻略前大本營ニ於テハ將來沖

繩諸島ニ作戰波及ノ時アルヲ考慮シ十號作戰準備ヲ

下令セリ

二十號作戰ノ準備ハ南西諸島及臺灣東岸ノ航空基地ヲ

強化シ以テ東面航空作戰ヲ九州基地ト相俟ツテ強化

セントスルニ在リ。即チ德之島・沖繩本島・伊江島・宮古石

垣各島及宜蘭臺東等ノ航空基地ヲ擴張又ハ新設シ之

ヲ確保スルニ足ルベキ地上兵力ヲ配置セントスルニ

在リ

三 32 A ハ如上ノ目的達成ノ爲三月末西部軍隷下ニ編成

セラル(防衛總司令隷下)

四 西部軍ハ南西諸島ノ作戰準備ニ努カシアリシ所同年

九月ニ到ルヤ南西諸島方面航空作戦ハ臺灣上海地區ノ
一環ニ於テ實施セラレバシトシ大本營ノ見解ニ基キ
突如第三十二軍ヲ臺灣軍ノ隷下ニ變更セラレ

第二 作戦思想ニ就テ

一、沖繩全般作戦ニ關シテハ大本營ハ作戦ノ準備ノ當初
決戦思想ヲ抱懷シアリタルモ爾後全般ノ作戦推移戰
力新ニ航空ノ船舶就中離島作戦ノ特性ニ鑑ミ一九四五年
ノ初頭ニ於テハ敵ニテハ以テ強要スル戰略持久ノ思
想ニ轉移セリ

ニ地上配備ノ思想ニ就テ

地上配備ハ一懸念作戦準備ノ趣旨ニヨリ航空基地ヲ飽
ク迄確保シ己ムヲ得サルモ敵ノ基地使用妨碍ヲ圖ル

ニ在リ。然ルニ32A作戦參謀ハ各諸島ノ兵力ヲ沖繩
本島ニ集約セントスルノ思想ヲ抱懷シアリ

一九四四年八月頃上京シ之ヲ説明セリ。防衛總司令部ニ於テ
ハ近代戦ニ於ケル航空基地ノ重要性ヲ説得シ該思想
ノ取ルベカラザルヲ指導セルモ尚航空基地確保ノ思
想薄ク動モスレバ基地ヲ放棄セントスル傾向アリテ
屢中央ヨリ指導セラレハ所アリタルモ尚修正スル所
ナカリキ。特ニ9Dヲ臺灣ニ抽出セル後ニ於テ然リ

第三 作戦開始前ノ情勢ニ就テ

比島戰ノ戰勢漸次不利トナルヤ32Aニ於テハ或ハ
一九四五年一月中ニ敵ノ來冠アルヲ豫想シ作戦準備ニ努力
ス。即チ築城ノ進捗ハ平素ノ二〜三倍程度ニ進捗セリ

大本營ニ於テハ比島作戰ノ推移ニ伴ヒ敵ノ來寇ハ四月月上旬以降ト判斷シテ天號作戰計畫ヲ企劃セリ。三月中旬米機動部隊ハ九州四國方面ヲ空襲セルモ32軍ニ於テハ之ヲ以テ沖繩本島上陸直前ノ準備空襲ト判斷シアラズ。即チ大本營ヨリノ情報放送ハ單ニ中南部太平洋方面ノ船團ノ動キ活潑ナリト言フニ過ギズ。且九州四國ノ空襲期間ヨリシテ機動部隊ハ本格的な上陸ノ爲ニハ尚一度ウルシー方面ニ歸投補給ヲ要スベシト判斷セルヲ以テナリ。

第五

作戰計畫ノ概要

一 全般ノ兵力部署

沖繩本島ニハ2Dヲ、徳之島 68B、宮古島 28D、石垣島 1B、南大東

島歩兵一聯隊強ヲ配置シ、宮古、石垣島ハ先島集團長統

轄シ、又徳之島守備隊ヨリ沖永良部島ニ大隊與論島ニ

小隊鬼界島ニ一部ヲ派遣シアリタリ。

ニ 本島ノ兵力配置

(1) 首里周邊ニ 62D 知念半島ニ 44B 喜阿武方面ニ 24Dヲ配置ス

ルニ三點防禦ノ思想ニシテ、川線附近ハ海軍守備隊約

八マッヲ以テ同方面ノ防禦ヲ担任セシム

(2) 本島北部方面ニハ國頭支隊(ニ大隊)ヲ配置シ地形ヲ利用

シ遊撃戰ヲ實施セシム。國頭支隊ノ内一大隊ハ伊江島

守備ノ爲派遣セラレタリ。

(3) 北中飛行場方面確保要領

62Dヨリ賀谷大隊ヲ中飛行場方面ニ、又臨時ノ軍隊區分

ヲ以テ航空壕區諸部隊ヲ合シ、特混第一聯隊(長航空地

區司令官青柳中將ヲ編成シ北飛行場方面ヲ守備セシム
△9Dノ入抽以前ニ於テハ24Dが全カヲ以テ北中飛行場方面
ノ防禦ニ當リシガ先留年末9D抽込後ニ於テハ本島南
部地區ノ防禦力薄弱トナリシ爲軍ハ24Dヲ南部地區ニ
轉用シ上記ノ如ク補備的配備ヲ以テ甘ンズルニ至レリ
三航空隊戰準備

の上號作對準備下令セラル、ヤ、324次ノ如ク飛行場ヲ擴
張新設シ同方面ノ航空作戰ニ遺憾ナキヲ期セリ

徳之島 一個

伊江島 二個

沖繩本島 北中南(完成)

首里秘區飛行場(未完成)

東飛行場 (〃)

(2) 燃彈關係

海岸ハ小綠飛行場ヲ擴張スルト共ニ系滿秘
區飛行場ヲ設定セリ

約FD 〇月分ヲ各飛行場ニ分類配置ス

(3) 航空地區部隊ノ配置

徳之島 飛行場中隊 | 航空通信一部

伊江島 飛行場大隊 |

本島 航空地區司令部 | 主力

飛行場大隊 ||

航空分隊 |

獨立整備隊 |

飛行場設定隊 |

四兵站(本島)

十號作戰準備下令後、糧秣ハ臺灣ヨリ移送シ、辛ジテ全
兵額ニ應ズル昭和二十年九月頃迄ヲ保有セリ。
彈藥約一會戰分其ノ他軍需品ハ主トシテ九州方面ヨ
リ集積セラレタリ。

五通 信

島内各兵團トノ有無線連絡ハ勿論各島間及九州臺灣
トノ航空系地上系通信ハ殆ンド完備シアリ

第五 兵團ノ素質

一、軍司令部

(1) 軍司令部編成完結後約一年ニシテ部内諸業務漸ク圓
滑トナレリ

(2) 軍司令官牛島滿中將ハ昭和十九年 月第二代司令官

トシテ來任、同中將ハ部内ニ於テモ人格者トシテ知ラ
レ支那ニ於テ旅團長トシテ勇名赫々如何ナル難局ニ
際シテモ悠々迫ラザル概アリ

(3) 軍參謀長、長勇中將ハ豪放ニシテ曾テ張鼓峯事變ニ勇
戰シ南方軍總參謀副長トシテ政務ニ關係シ、其ノ後滿
洲ニ於テ對戰車戰^{研究}ニ努力セラレタリ

昭和十九年 月沖繩ニ着任セリ

(4) 參謀部

高級參謀ハ陸軍大學校兵學教官トシテ、長ク勤務シ紳
士的人物ナリ、參謀部内ノ團結ハ必ズシモ良好ナラズ

二、各兵團

(1) 620ハ編制上次等師團ニ屬スルモ支那ニ於テ討伐作戰
ニ從ヒ實戰ノ訓練ヲ經アリ

(2) 24D ハ關東軍ニ於テ東部國境方面防衛ニ任シアリシモノニシテ素質最モ良好ナルモ兵團トシテ實戰ノ訓練ヲ經アラズ

(3) 獨立混成第四十四旅團ノ素質ハ62Dト概ネ同等ナリ
(4) 重砲兵隊司令部並各砲兵聯隊共素質能力最モ良好ナリ
(5) 其ノ他ノ諸部隊ハ素質必ズシモ良好ナラズ

第六 築城訓練

一 諸離島作戰ノ教練ニ基キ沖繩ニ於テハ徹底的ニ築城作業ヲ實施セリ。特ニ洞窟陣地ハ多數ノ自然洞窟ト相俟テ全部隊殆ンド完成シ、敵艦砲射撃ニ対シテハ完壁ヲ期セリ。之レ元五年一月頃米軍上陸ノ算多キノ判斷ニ基キ全部隊大イニ努力セル結果ニシテ一ト三月間ニ

ニ於ケル築城進捗率ハ平素ノ二乃至三倍ニ達セリ然レドモ築城ノ主体ハ掩護築城タル洞窟陣地ニシテ火力ヲ發揮スベキ野戰陣地ニ到リテハ尚不十分ナルヲ免レザリキ。即チ洞窟陣地自體ヲ一層戰争的ニ編成設備スルト共ニ之ニ附隨スル地表面陣地ヲ構築スルコト緊要ナリシナリ

二 軍ノ防禦陣地構成計畫ハ殆ンドナク各兵團ニ單ニ防衛地域ヲ配當シ各兵團各個ニ企圖スル築城ヲ實施セシノ軍統帥ハ作戰開始後兵團間隔ノ弱點ヲ暴露シ且兵團ノ機動ニ當リ難澁ヲ極ムル一因トナレリ又各兵團ハ主トシテ海岸正面ニ對シ陣地ヲ構成(62Dハ首里北方陸正面)シアリタル爲担任正面外即チ陸正面背後ヨリスル攻撃ニ對シテハ獨立性兵團ノ連繫統一

三 訓練

性ヲ失ヒ柔軟性ナル戦争遂行上薄弱ハ免レザリキ

部隊ノ改編、兵團ノ抽出、防禦思想ノ變更等ハ部隊ヲシテ陣地構築ニ專念スルヲ得ザラシメ、防禦戦争ニ關スル訓練大、小部隊ノ機動訓練ノ餘裕少カリキ。即チ築城^的、戦闘準備ニハ先ヅ一應努力セシモ、歩砲ノ協同機動逆襲等ノ如キ、動的作戰準備ハ十分ナラザリキ。

註 防禦思想ノ變更

第九師團抽岫前ニ於テハ、第三十四師團ハ北、中飛行場方面ニ、第九師團餘座嶽ヲ中心トスル南部地區ノ配備ニ任ゼリ。而シテ作戰構想ハ機動攻勢ノ思想ニシテ、敵北中飛行場方面ニ上陸スルヤ、軍主力ヲ以テ、北方ニ機動シ、又南部地區ニ敵來寇スルヤ、第三十四師團ヲ南方ニ機動セシメ、敵ニ決戰ヲ強要セントスルニ在リ。

然ルニ第九師團抽出セラレ、ヤ、南部地區ノ兵力不足トナリタル爲、第二十四師團ヲ第九師團ノ旧位置ニ招致セリ。從ツテ第三十四師團ハ第九師團ノ隱憂ニ満足スル能ハズシテ、別個ニ陣地構築ニ努力セリ。

第七 作戰經過

一、運河如ヨリ本島上陸迄

三月廿四日中旬敵軍三十八機動部隊ハ九州四國一帯ヲ空襲シ、ル儀二十三日ヨリ南西諸島ニ空襲ヲ開始

シテ、大平洋ノ制海ニ依レバ四月下旬頃沖繩方面ニ

敵軍三ノ軍ヲル旨承知シアリシモ當時大平洋全般ノ船隻状況ハ原ニ西才ニ向ヒ活潑ニ運航シアル旨通報

セラレアリタリト

在九州海軍第五航空艦隊ハ敵ノ機動部隊ニ対シ相

告ノ打撃ヲ与ヘ敵ハ「ウルシ」方面ニ退避シアル旨ノ

報ニ接シ下リシヲ以テ二十三日ノ空襲ヲ以テ上陸作

戦ノ序幕トハ判断シアラザリキ、然ルニ翌二十四日

敵ノ砲艇射撃開始セラレ、ニ及ヒ上陸ノ算大ナリシ
ト「甲戦線」下令セラレタリ

註 甲(敵ノ上陸作戰ヲ示スモノ) 乙(空襲
及名ハ艦隊射撃ヲ示スモノ) 丙 敵ニ対シテ警戒スルヲ要スル場合ノ三種ニ区
分セリナリ

2. 改組船団ハ當初那霸西方海面及湊川正面ニ現カ
ルニ至リテは、謀ハ敵上陸正面ヲ北中飛行場及湊川正面
ニ対シテ攻撃ヲ採ルニ決シ、處置スル所アリ、即チ湊川
地区方面ニ対シテ軍砲兵主力ノ陣地変換一部北方面
ヲ六丁ニ移田ヨリノ兵力抽込之ナリ。

而レテ敵ノ南北ニ正面上陸ノ先入感ハ最後迄脱却
シ、トヲ併ズレテ北才ニ於ケル現実ノ戦況ニ対ス
ル意旨違延シ、第六十ニ師団戦力ノ過早破綻ヲ招キ且

常時南才正面ニ牽制セラレツ、北才陸正面ノ作戰指導
不徹底ノ禍根ヲ為マリ

3. 慶良間列島ノ戦闘

1. 軍ハ水上特攻五個戦隊ヲ慶良間(三戦隊)那覇地区(二
戦隊)湊川地区(二戦隊)ニ配置シ、敵上陸正面ニ全カヲ統合
シテ攻撃スル如ク計画シ、アリタリ

然ルニ敵ハ三月二十五日ロセ、三ノ慶良間列島ニ対シ
舟艇百隻ヲ以テ急襲上陸セリ

水上特攻戦隊ハ之ニ対シテ攻撃スルノ途ナリ、直チニ陸
上戦闘ニ移リ、大部ハ潰乱シ、一部ハ山間ニ退避スルノ止
ムナキニ至ル

詮(山間ニ退避セル一部ハ爾後比較的長ク搜索據点ナリ無線立列舟ニ
依リ連絡シ、アリタリ)

(2) 慶長間列島ハ船舶ノ泊地 船舶ノ修理又我ガ航空特攻ヲ防ス
據奥トシテ米軍利用價値大ナリシモノ如シ

口ニ軍ハ戦カ發揮不能トナリタル特攻戦隊ニ対シ沖繩
本島ニ轉移ノ軍命令ヲ下シモ実況上ノ如ク一部
ノモノヲ除キ大部ノ轉用ハ不可能ナリキ
ハ三十一日ニ到リ慶伊勢島ニモ一部上陸セリ
ニ三十一日ハ神島島ニ到リ海軍百隻米陸軍
戦車一五ヲ以テ上陸直ニ追撃砲ヲ以テ射撃ヲ開始セ
リ時日ノ経過ト共ニ野戦重砲八一ニ門高射砲若干
ヲ上陸セシメ本島ニ対シ援砲射撃ヲ行ヒタリ 神島島
敵砲兵力ハ大ナルモノニテラスト雖モ其ノ射撃援砲
効果ヲカラズ 之ニ対シ水上挺進艇又ハ十五加ヲ以
テスル対砲兵戦ヲ実施シ之ヲ制圧セザルヘカラサル直接

痛痒ヲ感セリ

二 敵ノ本島上陸ヨリ主陣地前方ノ作戦

一 四月一日ハ敵ハ大型舟艇約一五〇隻小型舟
艇約六〇隻ヲ以テ嘉手納海岸ニ上陸ヲ開始ス 其ノ後
テ海面ニハ戦艦 洋艦 敵約一〇駆逐艦以下約三〇上
陸ヲ支援シマリ 又湊川正面ニ対シテ舟艇約五〇ヲ游
弋セシメ防動セリ

註 上陸状況(本文中数字ト異ニシ監視哨報線ノ報告ヲ其儘記載ス)

第一夜(ハ口九〇〇一ニ〇〇)

北谷 八〇
桑江 五〇
残波岬 四

平楽、比壽川不明

茅ニ次(一ニ三〇一四三〇)

一三〇〇頃「リ」の線ニ待機、桑江以北ニ上陸ヲ企圖

北谷ニ四〇一五〇上陸

2. 特設第一聯隊(北中飛行場方面航空地區諸部隊ヲ以テ三月

中旬臨時編成ス、長航空地區司令官(青柳中佐)ハ予定計

ニ基テ上陸部隊ニ対シ反撃セルヲ編成直後ニシテ

戦力極ナテ弱點ヲニシテ攻塵カヲ失ヒ爾後ニ

高地附近ニ退避シ態勢整理ノ止ムナキニ至ル

敵ノ進歩状況

一四〇〇 北谷一佐又川一中飛行場一北飛行場

又 刻 北谷一奥富士一屋良一伊良海一座喜

味

口 賀屋支隊ハ敵ノ進歩ニ伴ヒ之ニ接触ヲ保テツ、

島袋陣地ニ後退シ之ニ據ル

註 三月中旬台湾軍作戦主任参謀カ茅三十二軍視察ニ際シ方面

軍司令官ノ北中飛行場防衛強化ノ意圖ヲ傳達セル際ハ重砲ヲ

以テスル飛行場制圧ノ強化、賀屋支隊ヲ後退セシムルナリ

且特設聯隊ト共ニ死守スベキコトヲ以テモ事實飛行場制圧六十五

加三門ニ過キス賀屋支隊ハ後退ス如ク之ヲ指導セリ

20

三 茅一團總攻撃中止ノ経緯

1. 四月二日乃至三日ノ頃敵ハ遂次我主陣地前ニ近接

シ四日正午迄ニ我道一屋宜原一宜野湾北側一大山ノ

線ニ進歩ス、及ヨリ先軍参謀長ハ敵戦勢ノ浮動ニ乘

シ敵艦砲射撃爆轟威力ヲ制シツ、敵ヲ攻塵スルノ

去ヲ探シツ、アリ

即チ我航空特攻ニ依リ相当ノ成果ヲ収メアリタリト雖モ依然ナル艦砲射撃、爆撃ヲ受ケツ、アルヲ以テ大規模ナル渗透前進ニ依リ前地一帯ヲ彼我混入ノ紛戦状態ニ導キ敵ヲシテ艦砲爆撃ノ余地無カラシメ局部的ニ近接戦斗ニ依リ敵ヲ撃滅セントスルニ在リ四月三日日本攻勢案ニ関シ軍参謀長ハ各参謀ヲ集メ研究審議シ

2. 幕僚會議ノ模様

本島作戰ニ於テ各戦略兵团ヲ三兵基本配置ニ配備セルニ関シ根本的意見ニ左ノ如ク差異アリ即チ軍参謀長ハ三兵基本配置ニ敵ノ上陸正面不明ナル力故ニ然ルモノニシテ一度敵ノ進發方向明ラカト

ナルマ所要ノ兵力ヲ集中シ攻勢ニ依リ任務ヲ解決スヘシトナス意見ナリ

作戰主任参謀(高敏参謀)ハ各兵团戦力ヲ縦深ニ發揮セシメ各兵团ノ持久時日ノ總和ニ依リ持久任務ヲ解決セントスル意見ナリ。幕僚會議ニ於テ右兩意見ハ互ニ譲ラス他ノ真意又全員参謀長ヲ支持スル状況ナリシノミナラス参謀長ノ信念牢固タルモノアリ

3. 四月四日ニ到リ右攻勢案ハ軍司令官ノ裁決スル所トナリ夕刻各兵团長ニ集合ヲ命ジ内示スル所アリ

然レドモ四日夜約五〇隻ノ船団突如南方海域ニ現劣遊弋シ湊川正面ニ上陸スルノ算大ナル旨ノ航空部隊ノ通報アリシト遂ニ攻勢ヲ中止スルニ至レリ

註 敵ハ遂ニ湊川上陸ス我攻勢モ發動ス。本統帥ハ軍統帥

弱体ヲ暴露シ爾後作戰指導上統帥力履行上多分禍根ヲ招来ス

四 第三回總攻撃中止ノ経緯

1. 四月六日ハニミハ敵ハ津堅島ニ対シ上陸シテ六ハ之ヲ退退ス

全日敵ハ和守慶一南上原一我如古一八五高地一牧港ノ主陣地ヲ攻撃シ宜野高街道以西ノ第一線陣地ヲ奪取ス

2. 四月六日夜半台湾軍ヨリ「第三十二軍ハ北中飛行場ニ向ヒ攻惠スベシ」云々電報始ハ四月八日トス」トノ電報命令アリ

「右命令ハ第一回總攻撃ヲ企図セル場合ト同様作戰主任參謀ノ意図ト反セルモノナリレモ就中同時聯合艦隊

及第六航空軍總力ヲ擧ケテ第一回航空總攻撃ヲ実行セント企図シ策應スルノ要アリレノミナラズ敵ノ陸上陸上モ杞憂トナリ茲ニ六日一四ハ前構想ニ準ジ六日ヨリ攻勢ヲ發動スル軍命令下達セラレ

3. 七日第一線各方面共ニ戦斗激烈ナリ

一五ハ頃浦添沖ニ約百十隻ノ敵船団現發シ恰モ停船スルノ狀アリテ再ビ我側面ニ対スル上陸ニ懸念セラレ、ニ至リ夕刻遂ニ軍ハ本攻勢ヲ中止スルノ止ムナキニ至レリ

五 第三回攻撃ノ経緯

ル軍司令部ニ於テハ八日午後ニ至リ兩師團ヲ並列シ夫
有力ナル部隊ヲ以テスル攻勢ニ關スル是非及方法等ニ
關シ更ニ研究ヲ促進スルト共ニ同夜一部ヲ以テ斬入夜
襲ヲ實施セルモ大ナル成果ヲ收ムルニ至ラザリキ

2. 當時我陸海軍航空部隊ノ攻撃威力甚大ニシテ航空
母艦戰艦巡洋艦等ニ對スル撃沈破戦果着々擧リ本島周
邊ノ艦船中戦巡級ニ二隻内外驅逐艦級一八ヲ數フ

3. 四月十日頃ニ至ルヤ敵艦艇群ノ勢力激減セラレタ
ルモ、如ク殘存主力又我視界外ニ去ルモノヲク來襲
後激減激減ス

聯合艦隊モ亦壯烈ナル電命ヲ下達ス

諸將士線合スルニ敵ハ動搖ノ兆アリテ戰機將ニ

七分三分ノ兼ネ合ヒニ在リ

① 聯合艦隊ハ此ノ機ニ乘ジ指揮下一切ノ航空戦力ヲ投入總攻撃ヲ以テ飽シ遠天號作戦ヲ完遂セントス

4. 津堅島ニ對シヨハ三〇舟艇約八〇隻(兵力ニ大隊ト判断)ノ敵兵上陸ス

5. 我主陣地正面ノ敵ハ第一線約五〇〇戰車約一〇〇ニシテ主陣地前縁爭奪ノ粉戦ヲ惹起シアリ

6. 右ノ諸情勢ニ應シ軍ハ再ビ攻勢ヲ實施スルノ要ヲ感ゼリ然レドモ敵ノ縱深ニ亘ル戰勢ノ浮動ハ既ニ止ミ

主戦力ハ我カ陣前近クニ集中シアルニ鑑ミ先ツ主戦力集中地帯ノ敵ヲ掃滅スルヲ得策トシ十二日夕ヨリ大規模ナル陣前出撃ヲ爲スニ決ス(十日決定)

7. 十一日軍ハ和宇慶一五五高地一四一高地我如古、

嘉敷北側地隙ノ線ヲ保持シアリ

8. 然ルニ本攻勢ノ結果ハ兩師團(第二十四師團ハ歩兵第三十二聯隊ヲ第六十二師團ノ右翼ニ加入セシム)ノ攻勢兵力十分ナラズ攻勢ノ意志モ亦堅確ヲ缺キ大ナル成果ヲ收ムルニ至ラザリキ

註 本作戦ノ統帥上ノ實相ニ就テ

1. 作戦主任參謀ハ軍命令ヲ忠實遂クニ促進スルコトナク寧口兩師團ノ行動ヲ拘制シ自己ノ專守防禦的思想ニ沿フ如キ指導ヲ實施セリ

即チ各兵團參謀ニ對シ

「攻勢失敗ハ既ニ明瞭ナルヲ以テ大ナル兵力ヲ用フルコトナク若キノ斬入隊ヲ派スルヲ以テ足レリトス」ト

本件ハ軍情報主任參謀ノ聞知スル所トナリ又第六十二

師團參謀ヨリ直接軍參謀長ニ報告セラレタル所ナリ

2. 本攻勢ハ右ノミナラズ再度ニ且リ攻撃中止ノ命令ヲ下達セシ爲軍ノ統帥カニ對シ各兵團危惧セルモノアリシコト志一因ナリ

3. 本戰闘ノ結果軍統帥ノ紊亂ヲ暴露セルノミナラズ各師團參謀ノ軍作戰主任ニ對スル信賴全ク無ク且軍參謀部ノ空氣低墮タルモノアリタルハ事實ナリ

六 敵ノ攻勢終起

1. 我ガ陣前出撃後彼我共ニ局部的戰闘ノ外著變ナシ然レドモ前掲數次ノ不徹底ナル出撃ハ其ノ消耗ヲ補充スルノ途ナク第六丁ニ師團ヲシテ戰力ヲ過半ニ消耗セシメ逐次戰線ヲ集約セシメサルベカラザルニ至レリ蓋シ右戰線ノ集約ハ軍ニ兵力上ノ問題ニノミ歸センム

ル能ハズ逐次戰速的ノ確保價値モ減少シ且晝間の艦砲爆撃ニ暴露シ之カ保持ニ相當ノ犠牲ヲ拂フ要ヲ生ジタレバナリ 但シ晝間陣地ヲ一時的ニ敵手ニ委シ夜間之ヲ奪回スルハ其ノ戰法ノ特質上敢テ困難ニハアラザリシモ第二線ノ新陣地ニ依リ敵ヲ阻止スルニ勝レリトシタルニ依レリ

2. 十八日敵ハ依然攻撃準備ナルモノ、如ク更ニ知念半島方面ニ一部ヲ陽動セシメ上陸ノ徵候ヲ示セリ

3. 敵ハ我主陣地ニ接觸ヲ開始シテヨリ十數日間詳密ニ

撃準備ヲ行ヒ十九日ニ至リ依然重兵ヲ西海岸道ニ保持シ攻撃ヲ開始ス 猛烈ナル艦砲銃爆撃トハ我ガ行動ヲ制肘スル所大ニシテ逐次陣地ヲ蚕食スルニ至リタリモ第六十二師團及歩兵第三十二聯隊ノ防禦戰闘亦既ニ至